

アカガイ天然採苗試験

横山 勝幸・工藤 秀雄・浜田 勝雄

はじめに

アカガイの浮遊幼生調査により、浮遊幼生の成長と出現状況を把握して採苗器投入のための情報を提供するとともに、採苗器の投入状況と稚貝の付着状況を調査した。

浮遊幼生調査に当っては、川内町漁業協同組合と同町駐在の佐々木鉄郎主任水産業改良普及員の協力を得た。ここにお礼申し上げる。

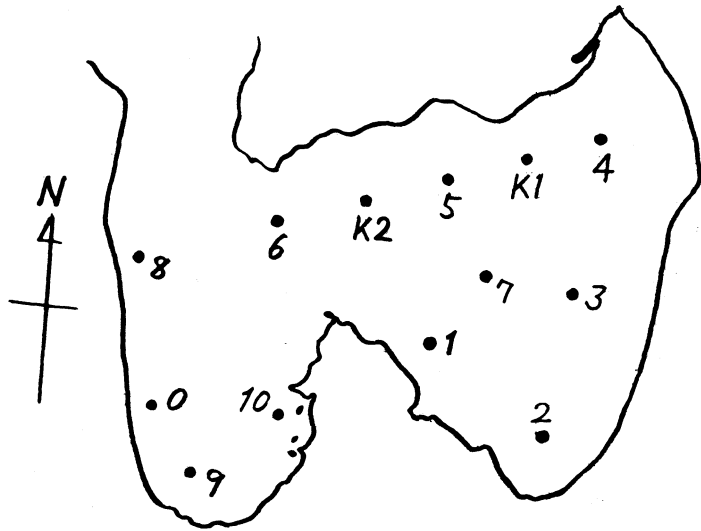
調査方法

1. 浮遊幼生調査

第1図に示した調査点で、ウイングポンプにより水深5m, 10m, 20m, 30mの各層より40ℓまたは50ℓの海水を採取し、100μのプランクトンネットでろ過、ホルマリン固定した後、万能投影機でアカガイ浮遊幼生の個体数と殻長を測定した。

2. 採苗器投入状況調査および付着稚貝調査

採苗器の投入状況をアンケート調査した。付着器の採取は任意の連より上中、下層を区分して、それぞれ1袋をホルマリン固定して持ち帰り計数、測定した。



第1図 アカガイ浮遊幼生調査点

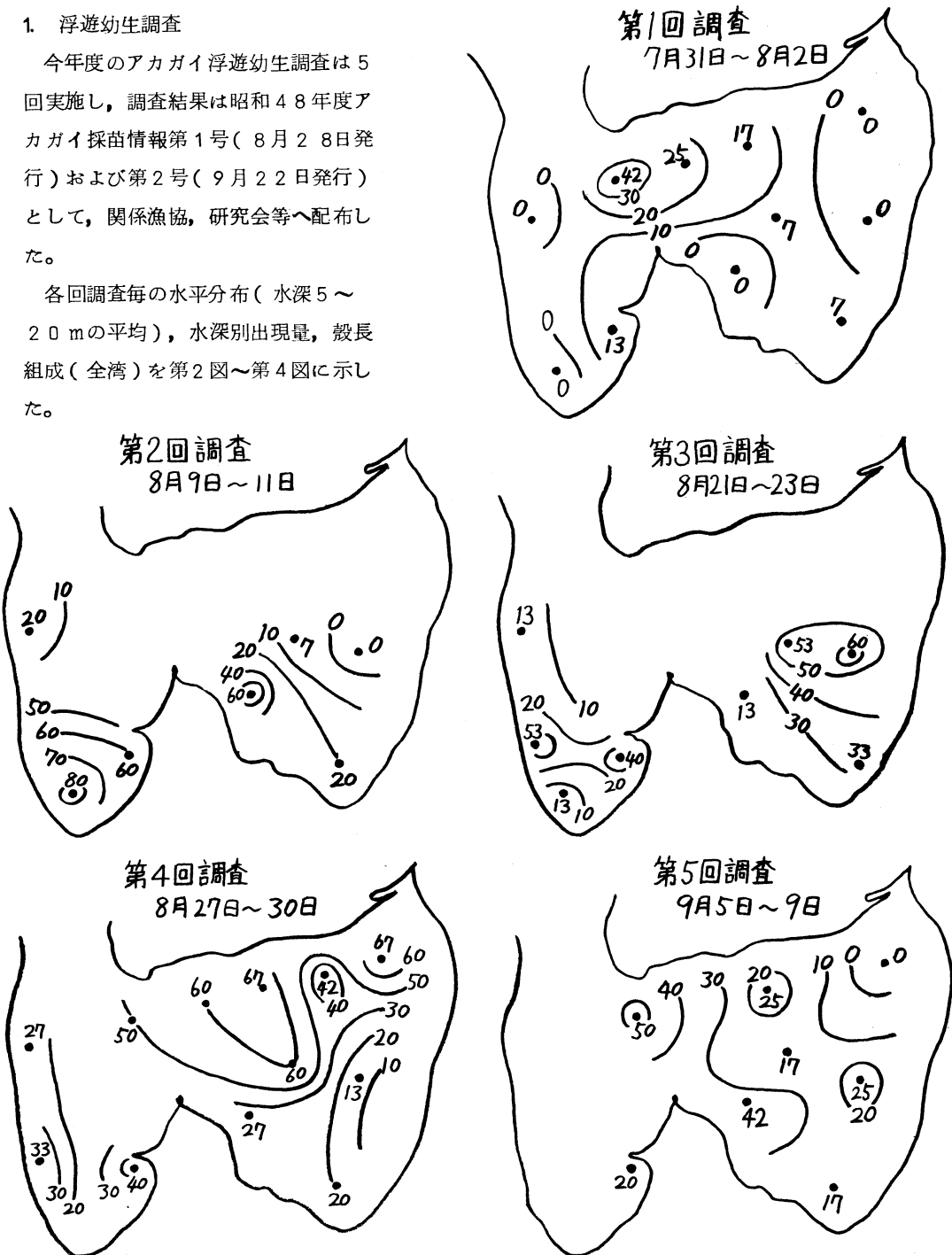
※ これには保護水面管理事業にともなう調査も含まれている。

調査結果

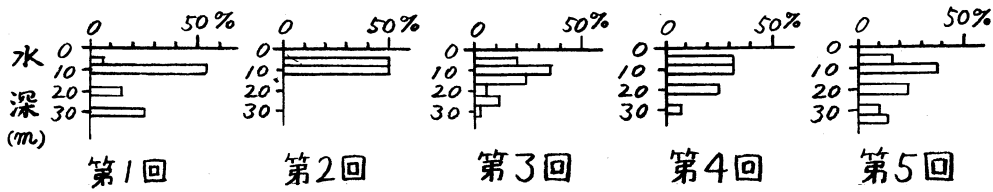
1. 浮遊幼生調査

今年度のアカガイ浮遊幼生調査は5回実施し、調査結果は昭和48年度アカガイ採苗情報第1号(8月28日発行)および第2号(9月22日発行)として、関係漁協、研究会等へ配布した。

各回調査毎の水平分布(水深5~20mの平均)、水深別出現量、殻長組成(全湾)を第2図~第4図に示した。



第2図 アカガイ浮遊幼生の水平分布(水深5~20mの平均値 個/m²)



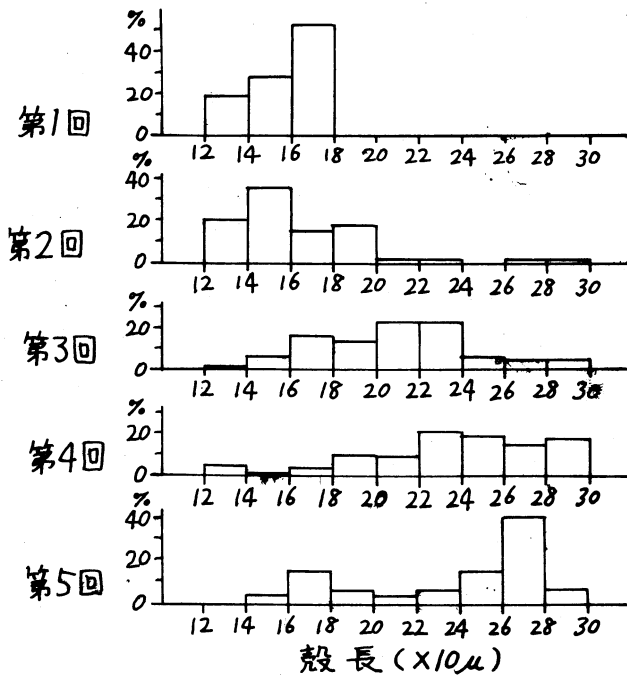
第3図 アカガイ浮遊幼生の水深別出現量

2. 採苗器投入状況調査および付着稚貝調査

採苗器投入状況のアンケートに対する回答分を第1表に示した。

アンケートの回収が非常に悪く、実態を把握できなかつたが、聞き取りによれば、他に川内、むつ、横浜、野辺地、東田沢、小湊等で個人によるアカガイ採苗器の投入が行なわれており、一時ホタテガイの陰になっていたアカガイ採苗に対する意欲は近年高まって来ているように思われる。

付着稚貝の調査結果を第2表および第5図に示した。



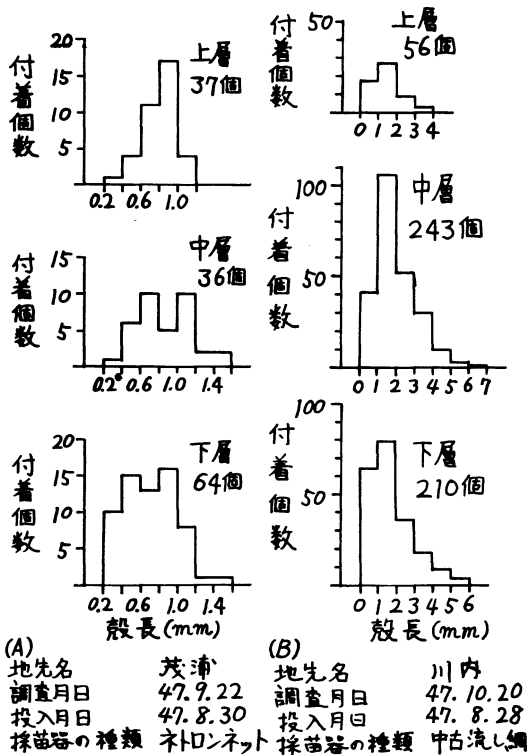
第4図 アカガイ浮遊幼生の殻長組成(全湾)

参 考 資 料

- (1) 昭和47年度アカガイ採苗情報第1号(青水増情報S.47-6.11)
- (2) 昭和47年度アカガイ採苗情報第2号(青水増情報S.47-6.14)
- (3) 昭和47年度保護水面(ホタテガイ, アカガイ)管理事業報告書(青水増資料S.47-6.12)

地先名	人数または 団体数	施設数 (ケ統)	採苗器の種類*と袋数			投入日	水深 (m)	備考
			ネトロン	流し網	計			
原別	1人	1	200		200	7月25日	35	
土屋	1団体	1	602	15	617	8月30日	32	研究会
浦田	107人	107		32,100	32,100	8月21日	48	
川内	1団体	1	500		500	8月28日	37	研究会
茂浦		1	100		100	8月30日	45	増殖センタ 一試験施設
			80	80	160	9月9日		

*ネトロン—ネトロンネット, 流し網—中古流し網



第5図 アカガイ付着稚貝調査結果

第2表 アカガイ, モガイ, アカザラガイ稚貝の付着状況

稚貝の種類	採取層	稚貝の大きさ(mm)と1袋当りの付着数								計	備考
		0~1	1~2	2~3	3~4	4~5	5~6	6~7	計		
アカガイ	上層	17	27	9	3					56	川内 地先名 調査日 47.10.20 投入日 47.8.28 採苗器の種類 中古流し網
	中層	41	106	52	30	10	3	1	243		
	下層	64	79	36	18	9	4		210		
モガイ	上層			4	1	1			6	川内 地先名 調査日 47.10.20 投入日 47.8.28 採苗器の種類 中古流し網	
	中層		1	8	3				12		
	下層	1	2	7	6	12	4	3	35		
アカザラガイ	上層	8	14	22	32	20	15	4	115	川内 地先名 調査日 47.10.20 投入日 47.8.28 採苗器の種類 中古流し網	
	中層	5	7	9	14	13	7	4	55		
	下層										